

地域創生戦略会議委員ご意見(抜粋)

ゴシックは新しい視点(明朝はすでに掲載済の内容)

分野	ご意見(抜粋)※◎は再掲
幅広い産業による元気な兵庫づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○企業立地、本社・本店機能の移転を働きかけ</li> <li>○地域資源である森林に重点を置いた施策の展開をすべき</li> <li>○多様なモデルを想定した持続可能な農業を確立することで、環境・地域社会が持続可能</li> <li>○大規模化や法人化による少数の経営に農地を集積させる施策だけでなく、中小規模の家族農業経営を含めて担い手として位置づけ、農地をはじめ地域の環境を維持している取組みを評価、補償する制度を充実すべき</li> <li>○日本のデジタル化の遅れについては、新たな価値創造のためのプラットフォームづくりを産・学・官で立ち上げること。そのために、中・小企業にDX・GXの考え方を啓蒙し、次に来る産業構造の改革に備えてもらうことが急務。</li> <li>○多様な地域資源を活用した、県民の多幸感溢れる暮らしを支える多様な分野での新産業化の実現を目指す</li> <li>○脱炭素を含む環境やSDGs重視の急速な世界の流れの中で、経済的付加価値だけでなく社会的付加価値が生み出せる企業・産業を地域の特徴として育成することも重要。</li> <li>○環境や社会課題解決に関心を持つ若者が増えているため、そうした企業を積極的に育成・支援することは、UJIターンを惹きつける重要なコンテンツになる。</li> <li>○地域創生に不可欠な中小企業の活性化のため、中小企業・小規模事業者への「働き方も含めた取引条件のしわ寄せ」を防止。サプライチェーン全体で生み出した付加価値の適正な分配、燃料高騰による適切な価格転嫁など「取引の適正化」が必要</li> <li>○国の「未来を拓くパートナーシップ構築推進会議」の議論を経て、「中小企業・小規模事業者への取引条件のしわ寄せ防止」「下請取引の適正化」「サプライチェーン全体の共存共栄」「規模・系列等を越えたオープンイノベーションなどの新たな連携促進」「振興基準の遵守」の観点で、「パートナーシップ構築宣言」の取組みが進められている。多くの中小企業を抱える兵庫県として、この「パートナーシップ構築宣言」の取組みを積極的に周知すべき。</li> <li>○戦略目標のうち「社会増対策」を重視すべき。転出する主たる理由は、若者の希望する仕事がないためである。税制や補助金、規制緩和などだけでなく、ローカル5GなどのICTインフラを行政主導で進めることにより、仕事を県内につくる。</li> </ul>
内外との交流による活力を生む兵庫づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域コーディネーター人材の育成(コーディネーターの定義、人材育成の仕組み、コーディネーターの充実・展開)・活用。市町職員のコordinエーター人材の育成</li> <li>○集落(地域)の主體的な決断がないまま限界集落化する「元気度の低い」小規模集落への対策の拡充・充実</li> <li>○地域づくりに消極的な(能力不十分な)市町に対する県の役割の強化(市町主体で進めると、各市町間で大きな格差が出るため)</li> <li>○地域に根ざした文化等のツーリズムへの活用</li> <li>○デジタル化やスマート社会の実現などと共に社会インフラ基盤の維持・強化についても、安心して暮らせるための社会づくりや国土強靱化・事前防災の観点から見て重要</li> <li>○関空の機能強化・神戸空港の国際化、都心部と南北、県内道路のネットワークなどアクセス整備</li> <li>○大阪・関西万博を契機とした交流人口の拡大</li> <li>○移住定住に関する企画委員会の提案を実践できるようにすることが重要</li> <li>○自然豊かな兵庫の魅力や価値を高めていくことで、地方回帰の動きを的確にとらえ東京一極集中の是正につなげていくべき</li> <li>◎地域資源である森林に重点を置いた施策の展開をすべき</li> </ul>
豊かな文化、安全安心でにぎわいあふれる兵庫づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域資源として地域の個性、文化の掘り起こし、超近代史、文化をまとめる</li> <li>○地域の超近代史、文化を語ることが出来る人材の発掘・育成</li> <li>○芸術・文化活動への包括的な支援体制の構築</li> <li>○地域の魅力の核となる歴史的建造物や歴史的景観の保全・活用拡大(「保全・活用」の補助拡充、法制緩和、活用マッチング支援等)</li> <li>○デジタル化やスマート社会の実現などと共に社会インフラ基盤の維持・強化についても、安心して暮らせるための社会づくりや国土強靱化・事前防災の観点から見て重要</li> <li>○ボランティア活動の一大拠点であり続けるための取り組み(防災組織の責任者の積極的な世代交代の促進、避難所などを運営する地域の人材育成)</li> <li>○移住を決断し定住してもらうには「医療と教育」の充実が重要(民間の力を借りながらも行政が主導していける分野)</li> <li>○ひきこもり状態にある方への社会参加支援に取組むことが必要</li> <li>○外国人にとって住みやすい施策の展開</li> </ul>
自分らしく働ける兵庫づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○男女関係なく子育てに関わることが出来る働き方、ワークライフバランス</li> <li>○流出が急増している女性の詳細な分析を待たず、速報値段階から矢継ぎ早に手を打っていくべき</li> <li>◎地域資源である森林に重点を置いた施策の展開をすべき</li> <li>◎多様なモデルを想定した持続可能な農業を確立することで、環境・地域社会が持続可能</li> <li>○大規模化や法人化による少数の経営に農地を集積させる施策だけでなく、中小規模の家族農業経営を含めて担い手として位置づけ、農地をはじめ地域の環境を維持している取組みを評価、補償する制度を充実すべき</li> <li>◎戦略目標のうち「社会増対策」を重視すべき。転出する主たる理由は、若者の希望する仕事がないためである。税制や補助金、規制緩和などだけでなく、ローカル5GなどのICTインフラを行政主導で進めることにより、仕事を県内につくる。</li> </ul>
結婚から子育てまで希望が叶う兵庫づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大学でのライフプラン教育</li> <li>○社会(地域)で子育てを支える</li> <li>○若い世代への子育て支援</li> <li>◎男女関係なく子育てに関わることが出来る働き方、ワークライフバランス</li> <li>○日本全体で1億人を維持することは「人口ボーナス」の考えからも必要ではないか。如何にして、安心して子供を産み、育てられる環境を構築するか。自然増対策の一大プロジェクトをすることが必要。</li> <li>◎流出が急増している女性の詳細な分析を待たず、速報値段階から矢継ぎ早に手を打っていくべき</li> </ul>
生涯元気に活躍できる兵庫づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○経営ベースで採算が取りにくい過疎地域における地域医療体制の充実や健康寿命の延伸策に加え、自殺予防対策事業の推進に取組むことが必要</li> <li>◎移住を決断し定住してもらうには「医療と教育」の充実が重要(民間の力を借りながらも行政が主導していける分野)</li> </ul>
デジタル化	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎デジタル化やスマート社会の実現などと共に社会インフラ基盤の維持・強化についても、安心して暮らせるための社会づくりや国土強靱化・事前防災の観点から見て重要</li> <li>○デジタル化推進/デジタル人材育成・情報基盤整備</li> <li>・デジタル人材の育成。大学と県内の企業との協調・連携による兵庫モデルのデジタル化の産学連携エコシステムの構築</li> <li>・情報基盤の整備。特に過疎地域などを対象に戦略的に増強することで、新しい働き場や生産・建設の現場づくり、医療、農業、教育の変革に繋がる。ひいては、特色あるスタートアップ誘致やテレワーク推進、若手、女性などの就労促進にも効果を生み出すことができる</li> <li>○ITリテラシーに富んだ人材育成</li> <li>◎日本のデジタル化の遅れについては、新たな価値創造のためのプラットフォームづくりを産・学・官で立ち上げること。そのために、中・小企業にDX・GXの考え方を啓蒙し、次に来る産業構造の改革に備えてもらうことが急務。</li> <li>○サステナブルな経営・資本主義への変化や「デジタル革命」を捉え、地域創生の次なる成長に繋げることが大事</li> <li>◎戦略目標のうち「社会増対策」を重視すべき。転出する主たる理由は、若者の希望する仕事がないためである。税制や補助金、規制緩和などだけでなく、ローカル5GなどのICTインフラを行政主導で進めることにより、仕事を県内につくる。</li> </ul>
カーボンニュートラル・脱炭素・水素	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎脱炭素を含む環境やSDGs重視の急速な世界の流れの中で、社会的付加価値を生み出す企業・産業を地域の特徴として育成することも重要</li> </ul>
SDGs	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎多様なモデルを想定した持続可能な農業を確立することで、環境・地域社会が持続可能</li> <li>◎大規模化や法人化による少数の経営に農地を集積させる施策だけでなく、中小規模の家族農業経営を含めて担い手として位置づけ、農地をはじめ地域の環境を維持している取組みを評価、補償する制度を充実すべき</li> <li>◎サステナブルな経営・資本主義への変化や「デジタル革命」を捉え、地域創生の次なる成長に繋げることが大事</li> </ul>
共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地方創生の議論もこれまでの延長上では限界があるため、基本的な視点を変える</li> <li>○県民局長に大きな権限・予算をゆだね、規制緩和も含めた五国(県民局単位)間の「競争政策」を実施し、県民局下の市町の結束を促す。また、その広域の結束により、成功した地域にさらに補助等支援することで加速</li> <li>○これまでの制度・仕組みの変革を地域の側から提案を受ける(例えば、英国で実施しているCityDealやBlockGrant方式(政府と地域との関係を抜本的に見直す仕組み)。こうした県庁と県下各地域との関係を作る)</li> <li>○成果結果による事業のスクラップ&amp;ビルドをするべき</li> <li>○兵庫県の地域特性を活かした地域創生(他地域との差別化、重視するもの)</li> <li>○ポストコロナの時代に向けて大きな経済構造の変容が必要</li> <li>○働き方や、人々の価値観の変化など、これからの価値の源泉は有形資産から人的資本へ移行していき、経済の「非物質化」が一層加速化</li> <li>○地域金融機関としての役割は、「地域の人的資本」と「地域の魅力の再認識」による『地域資源の発掘と地域における新たな共通価値の創造』</li> <li>○色々な人の意見を聞きながら試行錯誤や失敗を恐れずチャレンジする</li> <li>○五国の特色を生かした取り組みを県がバックアップしていくような、ボトムアップ型での地域創生を進めるべき</li> <li>○画一的な施策ではなく、地域ごとの特徴を生かした個々の施策を各地元が企画・取組し、その動きについて県をはじめとする行政がサポートしていくことが望ましい。</li> <li>○総花的はやむを得ないが限られた財源と人を使う以上、時期を区切り、優先順位をつけて実効していくべき。</li> <li>○特区的な重点地区で成功例をつくり、全県的に広げていく手法が有効</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>○企業立地の評価は高いが、学生が転出しているのはなぜか分析しては?</li> <li>○居住地として選ばれる兵庫をめざす</li> <li>○県出身の経営者と知事による「兵庫の未来」を考える定期的な会の開催</li> <li>○リスタート出来る環境とは?「チャレンジ出来る兵庫」、「再チャレンジ出来る兵庫」をアピールすべき</li> <li>◎サステナブルな経営・資本主義への変化や「デジタル革命」を捉え、地域創生の次なる成長に繋げることが大事</li> <li>○現在、日本が抱える人口減少、デジタル化への遅れ、格差など課題への対応</li> <li>○ポストコロナ時代のキーワードは、「信頼」「安心、安全」「健康的な暮らし」「あたたかなコミュニケーション」</li> <li>○いかに世界中の人々から「選ばれ」「支え合う=交流できる」兵庫県になるか</li> <li>○どのような価値観を持つ人々に「集(つど)ってほしい」県とするのか基準を明確にし、見える化と責任を持った発信が重要</li> <li>◎流出が急増している女性の詳細な分析を待たず、速報値段階から矢継ぎ早に手を打っていくべき</li> </ul>